

別添1

第5回 国有林モニターアンケート 結果概要

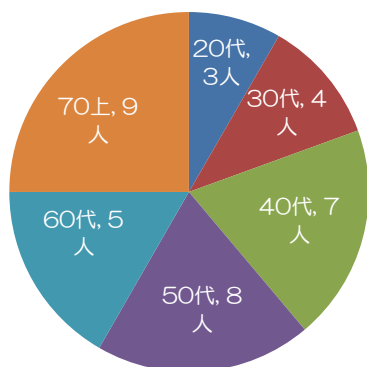
国有林モニター制度は、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、広く一般から国有林モニターを募り、国有林野事業についての理解を深めていただくと同時に、国有林野事業についての幅広いご意見等をいただき、これらのご意見を管理経営に役立てることで、「開かれた国有林」にふさわしい管理経営を行うことを目的としています。

今回、第5回国有林モニターアンケートを実施し、国有林モニター36名中28名の方からご回答をいただきましたので、その結果について報告します。

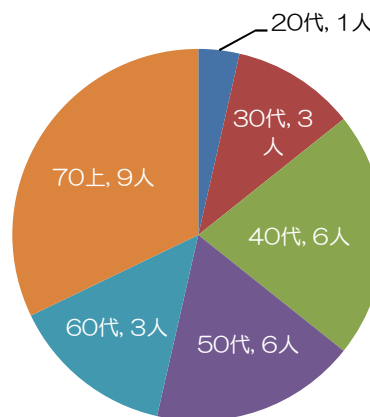
平成25年11月
中部森林管理局

国有林モニター基本情報

〈年齢層別割合〉

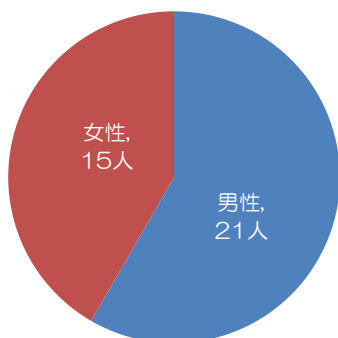


国有林モニター (36人)

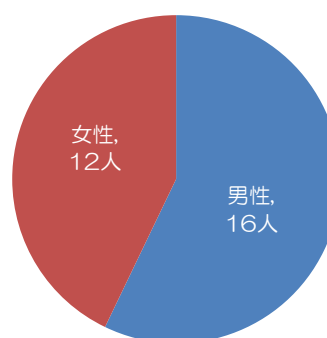


第5回アンケート回答者(28人)

〈男女別割合〉

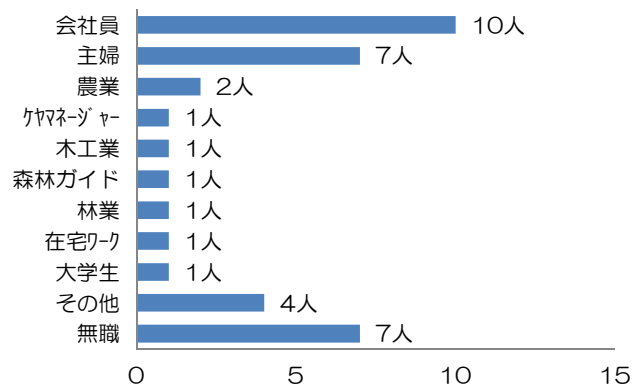


国有林モニター (36人)

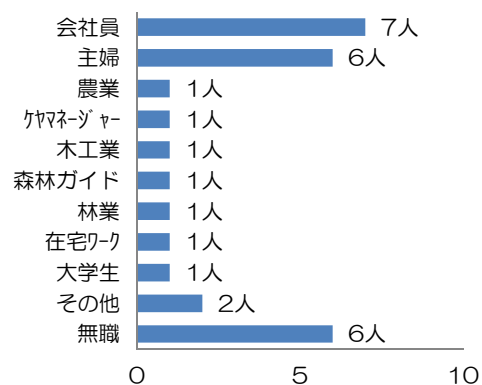


第5回アンケート回答者 (28人)

〈職業別割合〉



国有林モニター (36人)

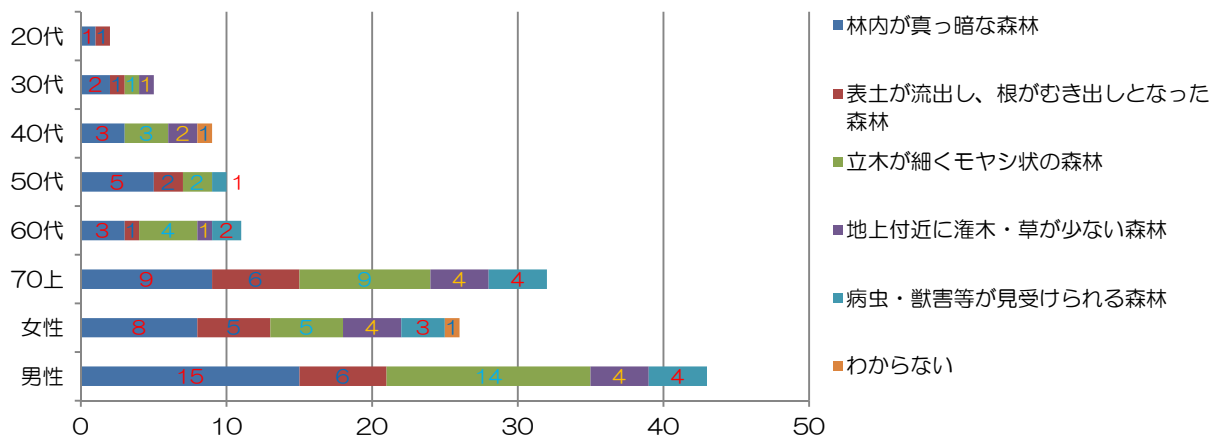
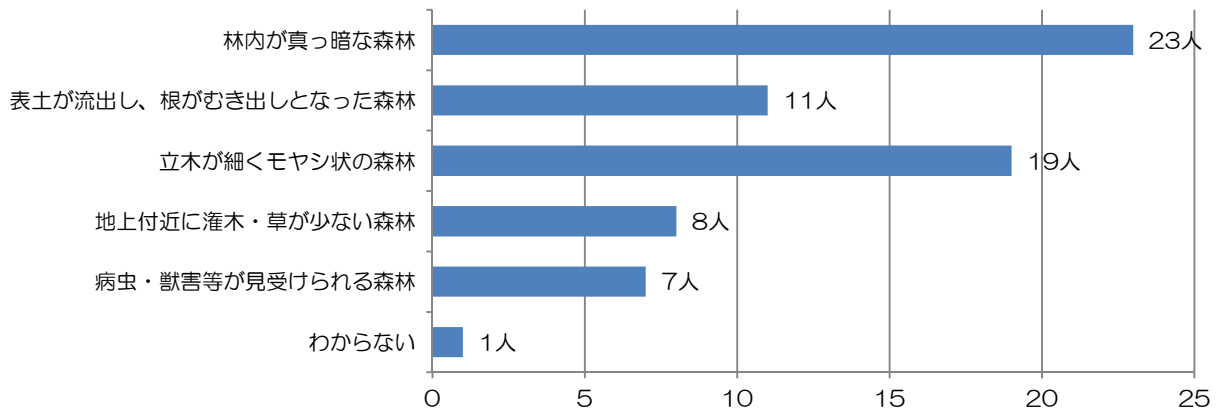


第5回アンケート回答者(28人)

人工林の間伐等の森林整備の推進について

【間伐が実施されていない森林へのイメージ】

問1 人工林では、森林を整備することにより健全な森林を保つことが可能となります。間伐作業が実施されていない人工林についてお聞きします。皆さんがイメージする間伐作業が実施されていない人工林について次の中から選んでください。（複数回答可）



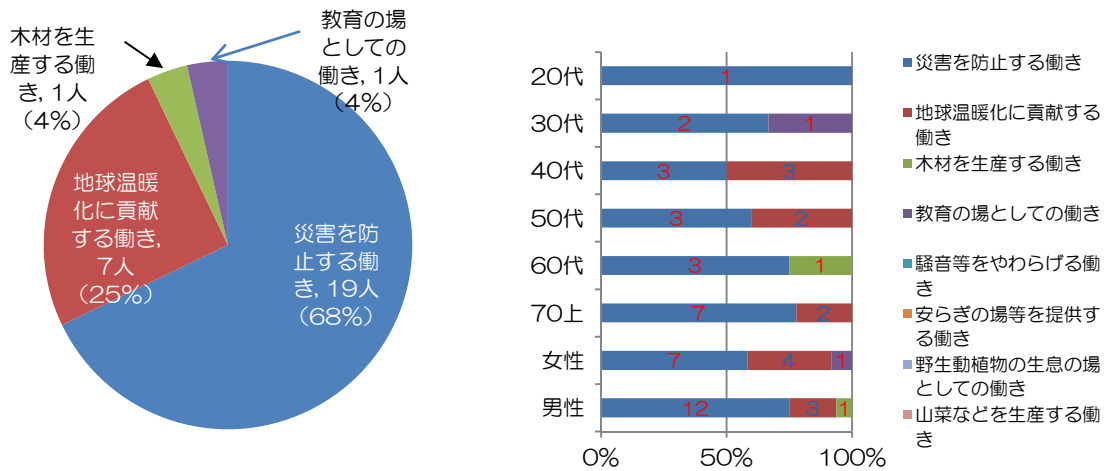
（結果）最も多かった回答は、「林内が真っ暗な森林」23人（男性15人、女性8人）でした。また、年代別で最も多かった回答は、70上では、「林内が真っ暗な森林」「立木が細くモヤシ状の森林」が各9人。50代では、「林内が真っ暗な森林」が5人でした。

この問に対する「その他」のイメージする森林としては、次の回答が1件ありました。

- ・脆弱な印象、放置されている印象

【森林に最も期待する働き】

問2 間伐等を実施し森林整備を推進することで森林の公益的機能が発揮されます。皆さんが森林に最も期待する働き（総理府「森林・林業に関する世論調査」より）についてお聞きします。次の中から1つお選び下さい。

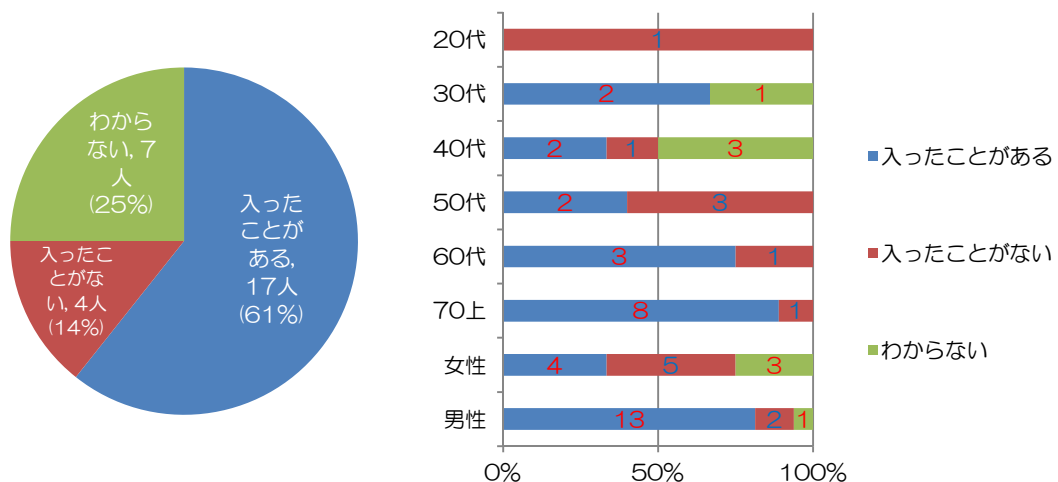


(注：全体分析の計の不一致は、四捨五入による)

(結果)回答が最も多かったのは、「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」19人(68%)でした。続いて、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」7人(25%)でした。なお、森林・林業白書(平成24年版)では、森林に最も期待する働きとして「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」が同じく1位となっています。性別で最も多い回答は、「災害を防止する働き」男性12人(75%)、女性7人(58%)でした。また、年代別で最も回答割合が高いのは、「災害を防止する働き」で、全世代での半数以上が森林に最も期待する働きとして回答しています。

【間伐が実施された森林に入った経験】

問3 間伐作業が実施された森林に入ったことがありますか。次の中から選んでください。



(結果)間伐作業が実施された森林に「入ったことがある」との回答は、17人(61%)と最も多く、「入ったことがない」との回答は、4人(14%)でした。性別で最も多い回答は、「入ったことがある」男性13人(81%)、「入ったことがない」女性5人(42%)でした。また、年代別では、「入ったことがある」との回答割合が高い年代は、70上、

60代と30代でした。「入ったことがない」との回答割合が高い年代は、50代と20代でした。50代でも「入ったことがない」との回答が3人(60%)と高い割合でした。

【間伐がされた森林の印象】

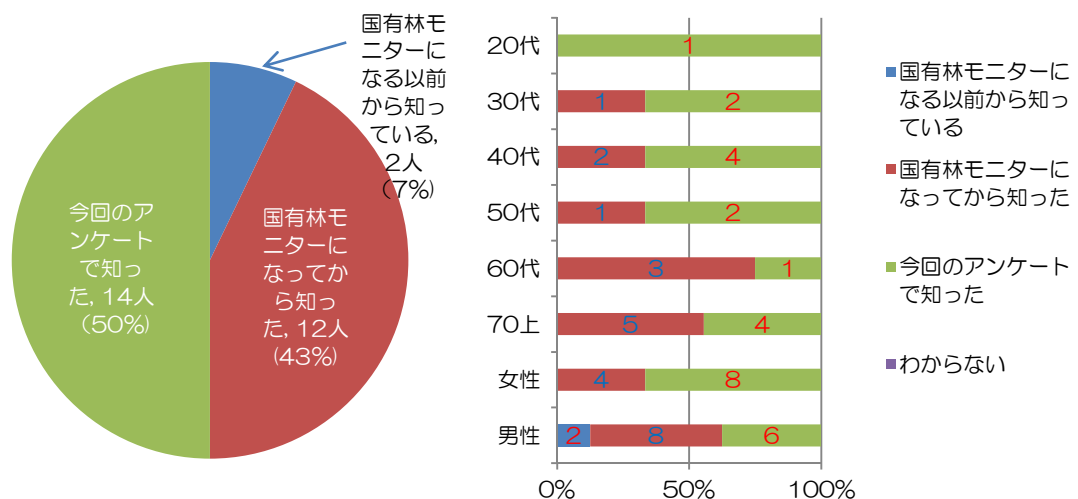
問 4 間伐が実施された森林に入ったことがある方にお聞きします。入った時の森林の印象についてお書き下さい。

この問に対する主な意見等は次のとおりです。林内への日射しが増す印象との回答が回答総数 16 件中 10 件ありました。

- ・歩き易い。移動し易い。
- ・林内に日光が差し込み、残った樹木や根が発達し木々が生き生きしている感じで、空気も動いて気持ちが良い。
- ・木と木の距離があり木々もうれしそうな雰囲気。
- ・陽が入って明るく、スペースな感じで心地よい。
- ・林内が明るく樹木が生きいき見えて林業の未来にも夢が持て、心がはずむ。
- ・木と木の間隔が広く、風通しが良く、木がどんどん大きくなれるように感じた。
- ・視野も広く整然とした木が並び心身が癒され気分爽快。林内に光が当たり下層植生も豊かになっている。
- ・立木が間隔をあけているので、光が差して明るく下草も生えている清々しい印象です。

【コンテナ苗の取組を知っていたか】

問 5 人工林が次々と主伐期を迎える中、再生林コストの低減が課題となっています。このため、中部森林管理局では、「植栽時期を選ばない」「植栽が簡単」「持ち運びが容易」「活着が良い」などの特徴を有し、地拵や下刈の省力化により事業コストを下げることでできるコンテナ苗の導入に取り組んでいるほか、このコンテナ苗を活用した伐採から植栽まで一貫した作業システムの実践を通じ林業経営のコスト低減に取り組んでいます。このコンテナ苗の取り組みについてお聞きします。次の中からお選び下さい。



(結果) 中部森林管理局がコンテナ苗に取り組んでいることへの最も多い回答は、「今回のアンケートで知った」14人(50%)でした。続いて、「国有林モニターになってから知った」12人(43%)でした。性別で最も多い回答は、「国有林モニターになってから知った」男性8人(50%)でしたが、女性は、「今回のアンケートで知った」8人(67%)と分かれました。また、年代別では、「今回のアンケートで知った」との回答割合が高い年代は、20代から50代でした。「国有林モニターになってから知った」との回答割合が高い年代は、60代、70代以上でした。

【人工林等の森林整備への意見】

問6 コンテナ苗の取り組みのほか、人工林等の森林整備についてお聞きします。ご意見等ありましたらご自由にお書き下さい。

この問に対する主な意見等は次のとおりです。

- ・コンテナ苗を広く普及させて手軽に植林できることをPRすべきである。小学生など多くの市民の力を借りて森林整備を進めるよう取り組んで欲しい。
- ・「コンテナ苗の土が重い」と、新聞記事に記載がありました。土以外で代替として最適なものができるといいと思います。
- ・植林のコスト削減、植付の手間が少ない等の他、伐採と並行した植林も可能で植付も良いとか、改良しながら今後の林業へ進化が期待される取組と思われます。
- ・皆伐した後、自然更新にまかせればという意見を聞くことがあります。環境や二酸化炭素削減の前に資源として山が必要だと思います。外国の山の木を使って間に合わせる時代は終わりに近いのではないのでしょうか。そのために、植林を続けてほしいです。
- ・人工林等の森林整備は間伐が最適だと思います。今までは間伐しても切りっぱなしにしていたと思います。間伐材も利用するようになり大変よいことだと思います。民間の山林は、小規模です。
- ・小規模の山林についても考えてもらいたいです。
- ・温暖化防止のためにも、もっと緑や木を増やしていく。そのためには、コンテナ苗も大賛成です。

安全・安心な国土基盤づくりについて

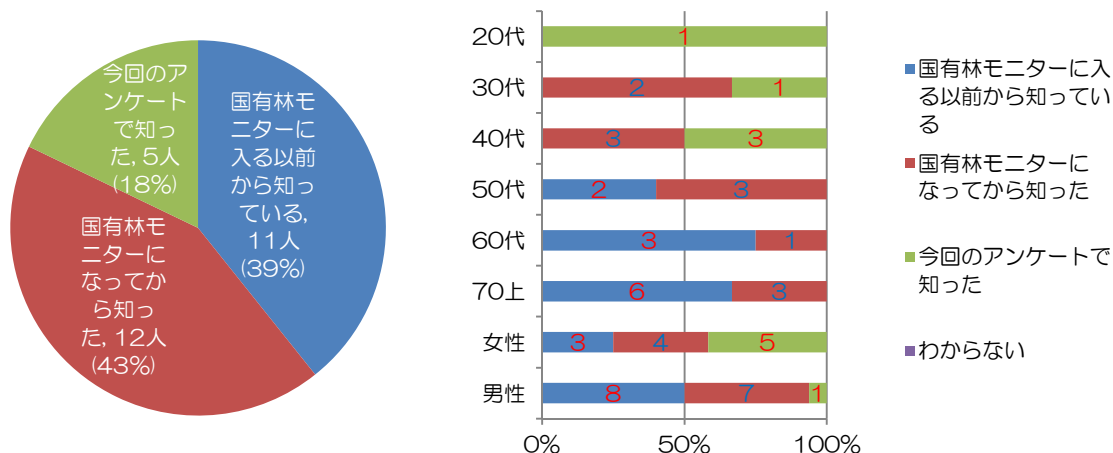
【治山事業の取組を知っていたか】

問7 中部森林管理局では、安全・安心な国土基盤づくりを目的に、

- (1) 国有林内で発生した集中豪雨や台風等により被災した山地の復旧整備の実施。
- (2) 大規模災害発生時は、民有林とも連携して、ヘリコプターの活用等による調査や応急対策、復旧計画の策定、復旧事業の実施。
- (3) 民有林において荒廃規模が大きく特に高度な技術を必要とする場合は、県からの要請により復旧整備を実施。

など治山事業に取り組んでいます。中部森林管理局が山地災害の復旧など治山事業に取

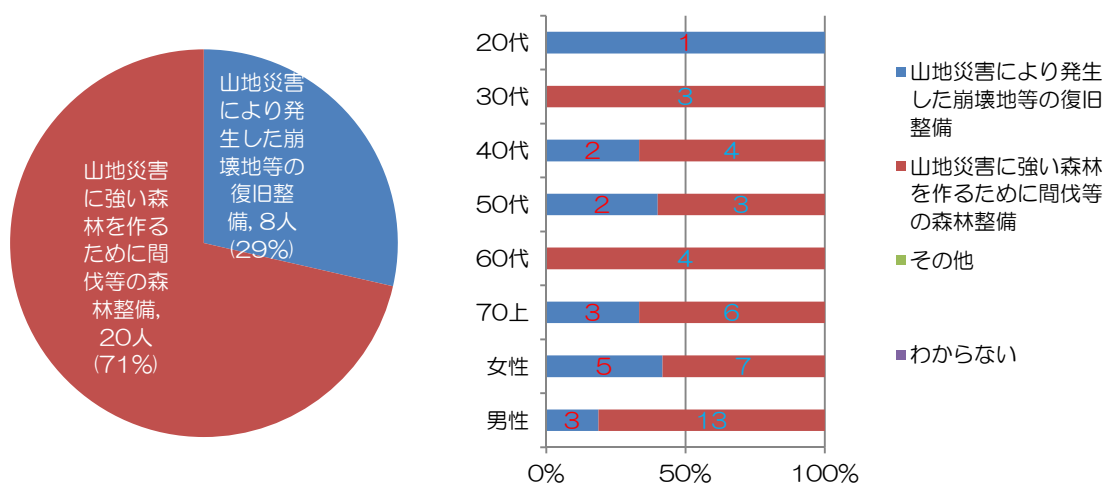
り組んでいることを知っていましたか。次の中からお選び下さい。



(結果) 中部森林管理局が山地災害の復旧など治山事業に取り組んでいることに対する最も多い回答は、「国有林モニターになってから知った」12人(43%)でした。続いて、「国有林モニターに入る以前から知っている」11人(39%)でした。性別で最も多い回答は、「国有林モニターに入る以前から知っている」男性8人(50%)、女性は、「今回のアンケートで知った」5人(42%)と分かれました。年代別では、「国有林モニターに入る以前から知っている」との回答割合が高い年代は、60代、70上。「国有林モニターになってから知った」との回答割合が高い年代は、30代、40代、50代でした。

【安全・安心のために行うべき取組】

問 8 生活の安全・安心の向上のため森林を管理していく上で、最も優先的に取り組む必要があると思われることについてお聞きします。次の中から1つお選びいただき、ご意見等がありましたらお書き下さい。



(結果)最も多い回答は、「山地災害に強い森林を作るために間伐等の森林整備」20人(71%)でした。続いて「山地災害により発生した崩壊地等の復旧整備」8人(29%)でした。性別で最も多い回答は、「山地災害に強い森林を作るために間伐等の森林整備」男性13人(81%)、

女性 7 人（58％）でした。また、20 代を除く全ての年代で「山地災害に強い森林を作るために間伐等の森林整備」が、回答割合が最も高くなりました。

この問に対する主な意見等は次のとおりです。

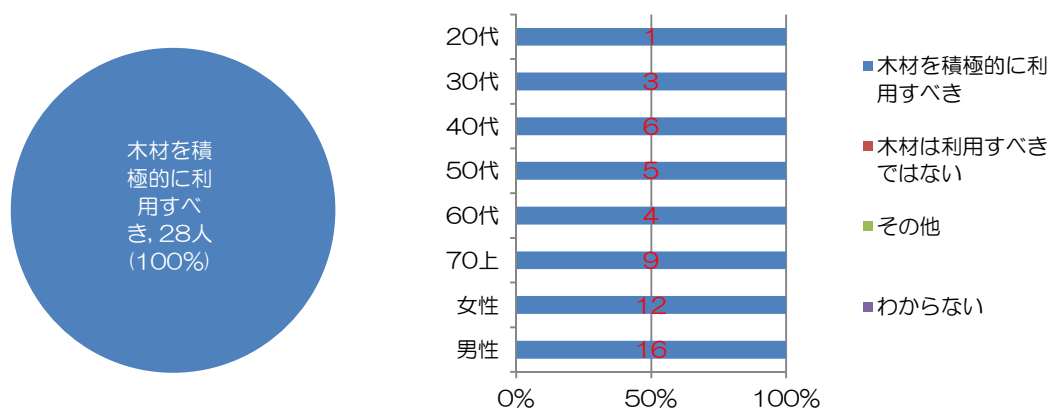
- ・動植物の生態系を正常に戻す為にも森林や里山整備は急務と思います。松枯れの山を見ると心が痛みます。そして、災害が心配になります。早くなんとかしないと手遅れになるのではと心があせります。
- ・これからも山地災害による復旧整備事業が増加することと想像しますが、復旧整備が進み何年か先、山地災害に強い森林整備事業が優先される時代が来ることを望みます。
- ・再び災害が発生し、人害（人的）被害がないように少しでも早くの復旧整備が必要。
- ・間伐の整備による自然との調和を図れば、林地崩壊なども防げるのではないかと。
- ・間伐等の森林整備を行うことで、土砂の崩壊防止、流出防止等、山地災害に強い森林を生育して欲しい。

【治山事業における木材利用】

問 9 治山事業等では、木材を山腹工、溪間工等に積極的に取り入れて間伐材の利用拡大等に取り組んでいます。

また、治山事業で使用しているコンクリート型枠用合板は、今まで南洋材を使用した輸入合板が主流でした。しかしながら、近年、国産材を用いた型枠用合板が開発されたことから、間伐材の需要拡大に向け、治山事業において実証的な実施に取り組んでいます。

治山施設に木材を利用することについてお聞きします。次の中から 1 つお選びいただき、ご意見等ありましたらお書き下さい。



（結果）回答は、「木材を積極的に利用すべき」という回答が、性別、年代別を問わず 100% となりました。

この問に対する主な意見等は次のとおりです。

- ・木材の生産・活用という”循環型社会”の整備促進につながると思う。木材は大いに使うべきである。
- ・間伐材の需要拡大が図られるし、また、改善により更に良い型枠用合板が開発されることが期待できるから。

- ・国産材を利用することで消費者に特典がある制度を推進し間伐材の積極的活用をすすめてもらいたい。
- ・輸送費節減からも地元木材を優先使用することが望ましい。次には、近隣から入手して使用するようにしたい。
- ・コンクリートだと工事費用が莫大にかかる。私も治山施設に木材を利用しているところを見えています。どんどん木材を積極的に利用すべきだ。
- ・その土地、気候に合ったその木材の利用が自然だと思います。
- ・治山施設に木材の利用が拡大することにより、森林の整備及び保全に役立つと考えますので、治山事業の各種工法に木材を積極的に利用して欲しい。

問 10 ご意見ご要望など（一部抜粋）

- ・レクリエーションの森の整備をもっと進めて、より多くの国民が関心を持つようにして欲しい。
- ・今回のレポートで山を守り、森と水を育み人をつつむ治山事業について大変勉強になりました。中部森林管理局で行っている住民を安全から守る各種治山事業に頭が下がります。住民としても日頃より山地災害に備える意識と協力が必要だと肝に銘じました。
- ・木曽の御神木が伊勢神宮の式年遷宮に使われているのをニュースとテレビ等で眼にし、長野県人として誇りに思います。次回も木曽から使われることを大変でしょうが期待しています。
- ・治山事業の体系（「森林の国から」P25）から、民有林について直轄事業の主だった事業にはどのような事業がありますか。治山事業の補助事業の主たる事業はなんですか。
- ・今でも人手がなくて間伐されていない真暗闇の森林を見かけますが、どういう対応をされるのですか。
- ・長野県の寒い地域で育った材木は、年輪幅が狭く目が詰まっていることが判っている。建築材の杉、桧、赤松、唐松は、長野県の山で育ち地元の木を使うことで地元の森が活性化され、又、木の家は温もりがあるので家族が生きている木に触れて育つことは永い目で見て人間形成に育成にも良い結果をもたらすと思う。森は、CO₂ を吸収するだけでなく、水源を守ることに寄与している。
- ・すべての取組がすぐに答えが出るものではなく、経過を見守りながらのことで大変御苦労が多いと思いますが、あきらめずに常に多くの方々の意見に耳を傾け、前向きな取組を進めて行かれることを願います。
- ・林野庁や局の取り組みはとてもよいと思います。しかし、一般の国民に対する情報発信が少なく理解されないのがもったいない。木材がどのような場所で育ちどのように利用されるのか広く国民に発信して欲しい。これは、林野庁の責任だけではなく国家としての取り組みが必要です。
- ・コストを低下させるというコンテナ苗というものがどういうものか、又近場ではどのように利用されているかということが知りたいです。

・今回、「森林計画等の用語解説」をいただいて、それぞれの用語を読んでいると、国有林の管理や作業の実際の中身がわかり、本当に多くの仕事があることが推測できます。一般の皆さんにも理解していただき、地元の森林を大切に作る心が広がると良いと思います。

まとめ

今回のアンケートでは、「人工林の間伐等の森林整備の推進」及び、「安全・安心な国土基盤づくり」について幅広いご意見等をいただきました。

間伐作業が実施されていない人工林のイメージや、間伐作業を実施した森林に入ったときの印象は、間伐作業を実施することで林内が明るくなるイメージを抱かれている方が多いことがわかりました。

森林に最も期待する働きは、「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」の回答が多く寄せられ、災害防止機能の発揮に対する期待が高いことがわかりました。

中部森林管理局が低コスト造林として取り組んでいる「コンテナ苗」に対する認知度は、「今回のアンケートで知った」とした回答が半数であり、一般の方への情報発信が不足していることがわかりました。人工林等の森林整備に対するご意見では、「コンテナ苗を広く普及すべき」「人工林等の森林整備は、間伐が最適である」等、森林整備に期待する意見が多く寄せられました。

また、安全・安心な国土基盤づくりとしての治山事業の取組に対する認知度は、「国有林モニターに入る以前から知っている」方が4割いるものの、「国有林モニターになってから知った」、「今回のアンケートで知った」が6割で、一般の方への情報発信がある程度効果を上げているものの十分でないこと、国有林モニターや今回のアンケートによる情報発信が図られていることがわかりました。

最も優先的に取り組む必要がある治山事業としては、「山地災害に強い森林を作るための間伐等の森林整備」とされる回答が多く寄せられ、寄せられた意見等から森林整備を促進していただきたいという意見等が多いことがわかりました。災害防止については、森林整備と崩壊地等の復旧整備の双方が必要なことにもご理解をいただければと思います。

治山事業等への間伐材の木材利用の取組については、「木材はもっと積極的に利用すべき」とする回答が100%となりました。

中部森林管理局では、引き続き局の取組等に理解を深めていただけるよう広報等に努めるとともに、今後も皆様からのご意見の把握に努め、皆様の貴重なご意見を参考にしながら、業務の改善を進めて参ります。ご協力お願いいたします。